

人権の日
にちなんで
お互いに人権を
尊重しましょう

作文入賞者発表

12月10日の「人権の日」に長門ユネスコ協会では、人権に関する作文を募集したところ、たくさんの作品が出品されました。入賞者は次のとおりです。

【特選】

深川小学校 5年 中原真須江
(差別をなくし、あたたかい思いやりを)
深川小学校 5年 吉田優子
(「ぼくの意見」を読んで)

【入選】

深川小学校 5年 中村由美 (辞典をかきながった信ちゃんを読んで)、深川小学校 5年 喜多和美 (みんな仲間だ)、大畑小学校 6年 植木真美 (友達)、大畑小学校 3年 大杉純子 (友だち)。

【佳作】

大畑小学校 3年 蒲 健司 (サッカー)
大畑小学校 3年 榎山ひとみ (サッカー)

差別をなくしあたたかい思いやりを

深川小学校5年 中原真須江

世の中には、なぜ差別というものがあろうか。みんな同じ人間だから差別なんてできるものではないと思う。差別される人は家が貧しいとか、頭が悪いとか、お父さんたちの職業とか、自分の力では、何も出来ないことで差別される人が多いと思う。だから私たちは、差別するまえに、その差別する理由を考えてみなくてはならない。そして、その差別する理由が、その人の力では、何とも出来ないことで差別するのはやめたらいいと思う。かといって自分の力で出来るものは、差別をしないとはいわれない。実際にあったことだが、差別されるようになった人は、友達もたくさんいるし、元気で明るい人だった。けれどもその人には欠点があった。その欠点とは、自分がほめられたり、いいことなどがあつたら、いばつたり、遊ぶ約束をしていたけれど、家の都合で遊べなくなつたりすると、かんかんにおこつたりして、みんなは、そういうことを人から聞いたり、見たりして、その人をきらうようになった。そして、その人が遊んでといつたけど、みんなは、のけ者にして、差別するようになった。けれどそれは、少しの間だけだった。それはその人は自分の欠点を知り、そこをよくしようとしていたからだ。今では、もうみんなと仲よく遊んでいる。私も、その人をきらっていたが今では、大好きになつた。

このように自分の力で、出来る人は、がんばればいと思う。けれど、自分の力では、何も出来ない人はどうだろう。そんな人たちは、私たちの学校には、何人かいる。たとえば家が貧しくて、おふろにも、ろくにはいれない人がいる。その人にすれちがつたりすると、くさくもないのに、くさいようにして鼻をつまんだり、くさいといつてにげたりして、その人をみんな差別している。そんなときその人は、なんていやな気持ちをするだろう。そしてその人は、気が弱いのので、何もいえずがまんをしている。そんなことが、何度も続いて、その人の心は、かたくなっている。そして自分からも、人からはなれようとしている。毎日学校に登校しているのがいやなのか、その人は学校を休む日が多い無理もないと思う。何んとかしてあげられないだろうか、私は1人でもいいから、その人をなくさめてあげる人がいたらいいと思う。そしてみんなも、その人つき合うようになったら 毎日の学校生活が楽しくなり、明るくなるだろう。差別をなくさせることは、むつかしいだろう、けれど1人1人が差別される人の気持ちになつてみたら、どうだろうと考え、その人も同じ人間だから、仲よくしてあげようという気持ちになれば少なくとも、差別をなくすることができる、私は思う。

「ぼくの意見」を読んで

深川小学校5年 吉田 優子

子供会で子供たちが、旅行の相談をして決めるとき、吉田君が大きくて、金持ちだからといって、どうしてその意見にしたがわなければならないのでしょうか。お母さんたちまでが、吉田君の意見に賛成することは全くないと思います。私は、ぼくの意見が一番よいと思います。よい意見だから、ほかのみんなも賛成してくれたのです。父や母も吉田君のところへ仕事に行くからといって、ぼくをしかつたり、世話役さんの所へたのみに行つたりします。私なら、親にたのみに行かせません。ぜつたに行つたらいいです。人間に差をつけてはいけません。「基本的人権」といって、人間だれでも自分の意見を自由に発言できるけんりがあるはずですよ。教室でも、勉強ができる人は、みんなともわりに仲よくできて、クラスの中でも中心的になることができますが、勉強ができないとかげのすみの方で、こそこそしているような様子があります。みんな、できる人もできない人もかばいあつて差別のないよう、明るいクラスを、先生のいわれることをよく聞いて、作つていくよう努力したらいいと思います。よく新聞やテレビで「落ちこぼれ」などという話を聞きますが、1人1人がもつとやる気を起こさなければと思います。

一生けんめいだれもやつたら差なんてつかないと思います。人間

思いやりをもつて行動すれば、人の立場も考えられるわけだから、もつと明るい世の中になると思います。私は、勉強のできる人、できない人、金持ち、貧ぼうというような差をつけるのは大きらいです。みんなも同じだと思ひます。吉田君は、自分の言うとおりにならないと、おこつてはらを立て、悪口をいいますが、そんな心だとみんなからきらわれるでしょう。その気持ちは、なおさなければいけないと思ひます。私は、1人1人が良いところを持つていると思ひます。勉強が良くわかる人、親切な人、字がきれいな人、運動が得意な人、字がきれいな人、いろいろな良い点を持つています。国語でも勉強したように、人は見かけだけでは、その人の良さがわかりません見かけだけで決めてはいけませんその人の心を見ぬき、理解してあげなければいけないと思ひます。私は1人1人の良い所を見つけて、その人の心を理解してあげれば差別がなくなると思ひます。みんな同じ人間なのに差別をしてはかわいそうです。私は、これからクラスの1人の人がこまつたことを、みんなで助け合い、1人1人の良い所を見つけて、気持ちを理解し合い、なかよく差別のないクラスを作つていきたいと思ひます。